

二〇二二年度 大学入学共通テスト 解説 〈現代文〉

第1問 評論

【文章Ⅰ】 柏木博 『視覚の生命力——イメージの復権』

【文章Ⅱ】 呉谷充利 『ル・コルビュジエと近代絵画——二〇世紀モダニズムの道程』

〔総括〕

第1問の評論では、ル・コルビュジエの建築における窓について異なる観点から論じた二種類の文章が【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】という形式で出題された。この形式は昨年同様。【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】ともにル・コルビュジエ著『小さな家』からの同一箇所引用文が含まれており、【文章Ⅱ】には写真が掲載されていた。問1の漢字問題では昨年からの新傾向が踏襲された。問2、問3、問4は【文章Ⅰ】から、問5は【文章Ⅱ】からの出題（傍線部問題）、問6は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の関連を問う問題（空欄補充問題）であった。昨年度と比較してやや難化したように思われる。

〔解説〕

問1 漢字問題 基礎

(i) 傍線部(ア)・(エ)・(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

- |     |        |       |       |       |      |
|-----|--------|-------|-------|-------|------|
| (ア) | 冒頭     | ◎① 感冒 | ② 寢坊  | ③ 忘却  | ④ 膨張 |
| (エ) | 琴線     | ① 卑近  | ② 布巾  | ◎③ 木琴 | ④ 緊縮 |
| (オ) | 疎んじられる | ① 提訴  | ◎② 過疎 | ③ 粗品  | ④ 素養 |

- 正解 (ア) 1 (エ) 2 (オ) 3 ②

(ii) 傍線部(イ)・(ウ)と同じ意味を持つものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(イ) 「行」という漢字は多くの意味を持つ。以下に主だったものを挙げる。

- ① いく。ゆく。(「行進」「行程」「通行」など) ……①行進
- ② おこなう。おこない。(「行為」「行事」「実行」など) ……④履行
- ③ 宗教上のつとめ。(「行者」「勤行」「修行」)
- ④ たび。(「旅行」「紀行」「行脚」) ……③旅行
- ⑤ ならび。ならんだもの。れつ。(「行間」「改行」) ……②行列

(イ)の「行った」は②の意味なので、正解は④。

(ウ) 「望」という漢字の意味は主に以下の三つ。

- ① 遠くを見る。見わたす。(「一望」「展望」) ……③展望
- ② ねがう。まちのぞむ。(「願望」「希望」) ……①本望・②囑望 (人の前途・将来に望みをかけること。期待すること)
- ③ ほまれ。人気。(「人望」「衆望」) ……④人望

(ウ)の「望む」は「景色を望む」という文脈上、①の意味で用いられているので、正解は③。②の意味で用いられていると誤解した人もいるかもしれないが、その場合、①・②の二つの選択肢が正解になってしまう。

- |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (イ) | 行った | ①行進 | ②行列 | ③旅行 | ④履行 |
| (ウ) | 望む  | ①本望 | ②囑望 | ③展望 | ④人望 |

正解 (イ) ④ (ウ) ⑤ ③

問2 内容説明問題 標準

傍線部 A 「子規は季節や日々の移り変わりを楽しむことができた」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部が一文の一部だけに引かれている場合は、一文全体から傍線部の意味を捉えなければならない。傍線部を含む一文は次のとおり。

障子の紙をガラスに入れ替えることで、<sup>A</sup>子規は季節や日々の移り変わりを楽しむことができた。

「障子の紙をガラスに入れ替えることで、～できた」ということは、逆に言えば「障子の紙をガラスに入れ替えなければ、～できなかった」ということだ。なぜか。本文冒頭に「寝返りさえ自らままならなかった子規にとっては、～」とある。病気で身体が利かなかった子規にとって、外の景色を楽しむためには、そしてそれによって「自身の存在を確認する」ためには、紙の障子をガラス障子にすることが不可欠だったのである。そのような理解を踏まえると、正解は③。「生を実感」という表現は、傍線部の一行前の「自身の存在を確認する感覚」と内容的に一致する。

- ①は後半の「現状を忘れるための有意義な時間」が誤り。「現状を忘れるため」ではなく「自身の存在を確認するため」である。
- ②は後半の「ガラス障子から確認できる外界の出来事」が誤り。たとえば窓越しに見える「青空」や「空」は「出来事」とはいえないだろう。
- ④、⑤はそれぞれ選択肢後半の「外の世界への想像をかき立ててくれた」、「内と外が視覚的につながったことが作風に転機をもたらした」が誤り。

正解 6 ③

問3 理由説明問題 標準

傍線部B「ガラス障子は『視覚装置』だといえる。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部Bの前段落はアン・フリードバーグ『ヴァーチャル・ウインドウ』の引用だが、そこでのポイントは二点。①窓は風景を切り取る。②窓は外界を二次元の平面へと変える。傍線部Bを含む段落は、この引用を受けて子規の書斎のガラス障子も①と②の機能を備えた「視覚装置」だということ述べている。したがって、筆者が「ガラス障子は『視覚装置』だといえる」と述べる理由は、(ガラス障子は①と②の機能を果たす仕掛けだから)。この二点を正しく指摘しているのは②だけ。②が正解。

①は①への言及がない。また「隔てられた外界を室内に投影して見る楽しみ」も誤り。外界が投影されるのは「ガラス障子」であり、「室内」ではない。

③は「外の世界と室内とを切り離したり接続したり」が誤り。また②の要素への言及がない。

④は「新たな風景の解釈を可能にする仕掛け」が誤り。また②の要素への言及がない。

⑤は「絵画に見立てる」が誤り。②の「外界を二次元の平面に変える」ということは必ずしも「外界を絵画に見立てる」ということを意味しない。

正解 ⑦ ②

問 4 内容説明問題 標準

傍線部 C「ル・コルビュジエの窓は、確信を持ってつくられたフレームであった」とあるが、「ル・コルビュジエの窓」の特徴と効果の説明として最も適当なものを、次の ①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部 Cは、子規のガラス障子と比較した、ル・コルビュジエの窓の特徴について述べている箇所である。子規のガラス障子とル・コルビュジエの窓の違いは、それが操作された意図的なフレームか否か、という点にある。ル・コルビュジエの窓は、確信を持って意図的につくられたフレームだ。ではその意図とは何か。それが傍線部の次の段落から【文章Ⅰ】の最終段落にかけて説明されている。

ポイントは以下の三点。ル・コルビュジエの窓の「特徴」は、①換気ではなく「視界と採光」のための窓。②外界を切り取るフレーム（風景を限定するもの）としての窓。そしてその「効果」は、③四方に広がる景色を限定し（壁の効果）、それを要素所取り扱うことで「水平線の広がりを求める」ようになる点（開口部としての窓の効果）。

以上のポイントを踏まえた⑤が正解。

- ①は「外界に焦点を合わせるカメラの役割を果たすもの」が誤り。
- ②は「居住性を向上させる機能を持つもの」が誤り。換気よりも視界を優先したル・コルビュジエの窓を、居住性を向上させるものとまとめることはできない。また選択肢後半の「採光を重視することで囲い壁に遮られた空間の生活環境が快適なものになる」も不適當。「囲い壁に遮られた空間の生活環境」はネガティブなものではなく、「囲い壁」はル・コルビュジエにとっては視界を遮るための意図的な装置である。
- ③は「アスペクト比の変更を目的としたもの」が誤り。「アスペクト比の変更」は目的ではなく結果として起きたことである。
- ④はやや紛らわしいが、「囲い壁を効率よく配置することで風景の没入が可能になる」が誤り。「効率よく配置する」ことは「効果的に配置する」と同義ではない。

正解

⑧ ⑤

問5 内容説明問題 応用

傍線部D「壁がもつ意味は、風景の観照の空間的構造化である。」とあるが、これによって住宅はどのような空間になるのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

「観照」とは〈本質を見極めること・対象の美を直接的に感じ取ること〉の意だが、「風景の観照の空間的構造化」と言われてもピンとこない。傍線部直後の「この動かぬ視点」という換言表現をヒントにすべきだろう。「動かぬ視点」とは、傍線部Dの直前で説明されているように、〈風景を一点から眺める視点〉である。そして、最終段落に述べられているように、「動かぬ視点」によって住宅は「沈黙考、瞑想の場」となる。これを正しく指摘している③が正解。

①は「動かぬ視点」が正しく説明されておらず、また「仕事を終えた人間の心を癒やす空間」も「沈黙考、瞑想の場」とは異なる。

②は「人間が風景と向き合う空間」が誤り。第2～3段落で述べられていたように、「心の琴線に耳を傾ける〈瞑想の時間〉」とは、「内面的な世界」に関わるものであり、外的な風景に向き合うものではない。

④は「住宅は風景を觀賞するための空間になる」が誤り。住宅を「沈黙考、瞑想の場」として説明していない点で、②同様の誤り。ちなみに②や④は【文章I】の論旨には沿っているが、【文章II】の論旨には沿っていない。

⑤はやや紛らわしいが「外界に対する視野に制約が課される」が誤り。「制約が課される」だけでは「動かぬ視点」とはいえない（ある程度の制約であれば〈動く視点〉も可能）。また「沈黙考」する対象は本文では「自己」に限定されていないので、「自己省察するための空間」も不適當。

正解 ③

問6 二つの文章の関連を問う問題 応用

次に示すのは、授業で【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】を読んだ後の、話し合いの様子である。これを読んで、後の(i)～(iii)の問いに答えよ。

(i)について。空欄【X】には、ル・コルビュジエの引用文に対する【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の違いを指摘した発言が入る。必要に応じて、それぞれの引用文に戻りつつ、選択肢を検討しよう。

①は後半の「壁の圧迫感について記された部分が省略されて」が誤り。

②は後半の「その壁によってどの方角を遮るかが重要視されている」が誤り。重要視されているのは「風景の限定」であり「どの方角を遮るか」ではない。

③は前半の「壁の外に広がる圧倒的な景色とそれを限定する窓の役割」が誤り。圧倒的な景色を限定するのは窓ではなく壁の役割である。

④は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の引用の仕方の違いを正しく説明しているため、これが正解。

正解 10 ④

(ii)について。空欄【Y】には、ル・コルビュジエの話題の前に子規のことを取り上げた理由を指摘した発言が入る。ル・コルビュジエの窓と、子規のガラス障子との共通項が、外界の風景を「視覚装置」であったという点を確認して選択肢の検討に入る。

①は「ル・コルビュジエの建築論が現代の窓の設計に大きな影響を与えたことを理解しやすくするために」が誤り。ル・コルビュジエの話の要点はそこにはない。

②は適当。「居住者と風景の関係を考慮したもの」という表現は、「住まいを徹底した視覚装置のように考えていた」という本文の内容と一致する。また、そのために「子規の日常においてガラス障子が果たした(視覚装置としての)役割をまず示した」という後半部の説明も妥当。

③は不適当。「子規の芸術に対してガラス障子が及ぼした効果」については触れられていない。

④も不適当。「ル・コルビュジエの換気と採光についての考察」は「住み心地の追求」ではない。

正解

11

②

(iii)について。空欄 Z には、「文章Ⅱ」と関連づけて「文章Ⅰ」の子規の話題を読んだ場合、どのように解釈できるかを指摘した発言が入る。  
 【文章Ⅱ】の論旨は〈動かぬ視点をもたらす沈黙考の場としての住宅〉であるから、その内容を【文章Ⅰ】の子規の話題と矛盾なく関連づけてい  
 る③が正解。

①は「子規の書斎もル・コルビュジエの主題化した宗教建築として機能していた」が誤り。

②は「光の溢れる世界」・「仕事の空間」が誤り。【文章Ⅱ】の論旨はむしろ、「光の疎んじられる世界」・「瞑想の空間」である。

④は【文章Ⅱ】ではなく【文章Ⅰ】の論旨に沿って子規の書斎を説明している点で不適当。

正解

12

③





このような流れを踏まえると、傍線部 A の段階では、「私」は、ある程度の自信を持って提出した自分の構想がなぜダメ出されるのかをわかっておらず、下書きの内容をなぞるような説明を繰り返しているだけであることがわかる。

以上から正解は①。

②は「会長も出席する重要な会議の場で成果をあげて認められようと張り切って作った構想」が、第1段落の「無理矢理に拵え上げた構想」と矛盾する。

③は「自分の未熟さにあきれつつも」が誤り。この段階では、なぜダメ出されるのかを「私」はわかっていない。

④「過酷な食糧事情を抱える都民の現実を見誤っていたことに今更ながら気づき」が誤り。この段階では、なぜダメ出されるのかを「私」はわかっていない。

⑤は「会長からテーマとの関連不足を指摘され」が誤り。会長が指摘しているのは〈金にならない提案をしてどうする〉というものであり、「テーマとの関連不足」ということではない。また「急いで構想の背景を補おうとしている」も誤り。ここで「私」が「あわてて説明した」ことは、提出した構想の繰り返しにすぎない。

正解

13

①

問2 理由説明問題 標準

傍線部 B 「私はだんだん腹が立ってきたのである」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答の根拠は傍線部 B の次の行の「ただただ私は自分の間抜けさ加減に腹を立てていたのであった」に見出せる。そしてここでの「自分の間抜けさ加減」とは、傍線部 B の前三行で述べられている、〈戦争中に情報局と手を組んでたんなる儲け仕事をしていたこの会社が、私費を投じた慈善事業などをやる筈がないのに、それに気づかなかった自分の間抜けさ加減〉である。それに対して「私」は腹が立ったのである。したがって正解は⑤。

- ①は「給料をもらって飢えをしのぎたいという自らの欲望を優先させた自分の浅ましさ」が誤り。「自分の間抜けさ加減」の説明として不適当。
- ②は「会社が戦後に方針転換」したという前半の内容が誤り。また後半も、腹立たしさの対象を会社の営利精神としている点も誤り。
- ③は「戦後に営利を追求するようになった会社」が誤り。
- ④は「戦後の復興を担う会社」が誤り。ここは「利益のみを追求する会社」とでもいうべきところだろう。また「飢えの解消を前面に打ち出す提案」も不正確な表現。「私」の提案は第1段落にあるように「私」がもっとも念願する理想の食物都市とはいささか形はちがっていたが、その精神も少からずこの構想には加味されていた」ものであり、「飢えの解消を前面に打ち出す提案」とはいえない。

正解 ⑤

14

問3 心情説明問題 標準

傍線部C「自分でもおどろくほど邪険な口調で、老爺にこたえていた」とあるが、ここに至るまでの「私」の心の動きはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部に至る流れを確認しよう。

← あまりの空腹に「憂鬱な顔をして焼けビルを出」た「私」

← 「私」以上に飢えている老爺に食糧を懇願される

← 老爺の骨ばった手を「ある苦痛をしのびながら」振りはらう

← (本当だったら食べ物を恵んであげたいが、それができない心苦しさ)

← それでも食い下がる老爺

← C 自分でもおどろくほど邪険な口調で、老爺にこたえていた

← 「駄目だよ。無いといたら無いよ。誰か他の人にも頼みな」

このように見ると、傍線部Cの「私」の行動は、老爺に対するいら立ちや嫌悪感などに由来するのではなく、「どうしようもない心苦しさ」に由来することがわかるだろう。その「どうしようもない心苦しさ」から逃れたくて邪険な態度に出たのである。正解は⑤。

①・③・④は邪険な態度の原因を老爺に求めている点で誤り。

②は「周りの視線を気にしてそれ（老爺に頭を下げ許しを乞うこと）もできない自分へのいらだち」が誤り。「許しを乞うことができないこと」が辛いのではなく、「自分以上に飢えた老爺に何もしてやれないこと」が心苦しいのである。

問4 心情説明問題 標準

正解 15 ⑤

傍線部D「それを考えるだけで私は身ぶるいした。」とあるが、このときの「私」の状況と心理の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

老爺の手を振り払い、食堂で貧しい食事をしている私の心に、私をとりまくさまざまな構図が去来する。富める人々、貧しい人々、苛立つ人々。その中に、朝起きたときから食物のことばかり妄想し、こそ泥のように芋や柿をかすめている「かすめる」すきをうかがって素早く盗む「私」の日常がある。傍線部Dの「それ」とはこんな日常が連続していった果てに「私」に待ち受けているであろう結末であり、それを考えて「私」は身ぶるいするのである。

以上の内容を正しく踏まえている①が正解である。

②は「芋や柿などの農作物を生活の糧にすることを想像し」が誤り。  
 ③・④・⑤はそれぞれ「その場しのぎの不器用な生き方しかできない我が身を振り返った」・「会社に勤め始めて二十日以上経ってもその構造から抜け出せない自分」・「社会の動向を広く認識できていなかった自分」が誤り。  
 ここで「私」が省みているのは、「食物のことばかり妄想し、こそ泥のように芋や柿をかすめている」自分である。

正解 16 ①

問5 発言説明問題 標準

傍線部E「食えないことは、やはり良くないことだと思うんです」とあるが、この発言の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

日給三円という食えることもままならない薄給であることを知った「私」の体に「水のように静かな怒り」が拡がる。「私」はこの会社を辞める決心をかためる。傍線部Eは、その理由を問う庶務課長に対して「私」が「低い声」で述べた発言である。このような「発言」・「セリフ」について問われた場合、発話者がどのようにその言葉を述べているのかを具体的にイメージすることが重要である。「水のように静かな怒り」を胸に湛え、「低い声」で退職の理由を述べる「私」の様子イメージできれば、正解は①に決まるだろう。

- ②は「つい感情的に反論した」が誤り。
- ③は「ぞんざいな言い方（＝乱暴で不作法な言い方）」が誤り。
- ④は「月給ではなく日給であることに怒りを覚え」が誤り。「私」が怒っているのは日給であること自体ではなく、その日給があまりにも少ないことである。また「課長に何を言っても正当な評価は得られないと感じて」ぶっきらぼうに述べた」も誤り。ここでの「私」の発言は、どうせ何を言っても意味がない、というような投げやりなものではなく、静かな怒りを秘めたものである。
- ⑤は「負け惜しみのような主張を絞り出すしかなかった」が誤り。

正解 17 ①

問6 心情説明問題 標準

傍線部F「私はむしろある勇気がほのと胸にのぼってくるのを感じていたのである」とあるが、このときの「私」の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

傍線部Fの「ある勇気」がどのようなものであるかは、傍線部Fの直前の内容から推測できる。

ほんとに私はどんなに人並みな暮らしの出来る給料を期待していただろう。盗みもする必要がない、静かな生活を、私はどんなに希求していたことだろう。しかしそれが絶望であることがはっきり判ったこの瞬間、私はむしろある勇気がほのと胸にのぼってくるのを感じていたのである。

「私」は会社勤めをすることで「人並みな暮らしの出来る給料」を期待していたが、その道は完全に絶たれた。そうであれば、傍線部Eの二行後にあるように、「ふつうのつとめをしては満足に食べて行けないなら、私は他に新しい生き方を求めるより」ない。その「新しい生き方」への勇気が「ほのと胸にのぼってくるのを感じてい」るのである。このような理解を踏まえると正解は④。

- ①は「その給料では食べていけないと主張できたことにより」が誤り。「私」に勇気を与えているのはそのことではない。「ふつうのつとめ」をして生きていくことへの絶望である。
- ②・③・⑤は「ある勇気」の源泉を課長に言われた言葉に求めている点で誤り。

正解 18 ④

問7 発展的学習に関する問題 応用

Wさんのクラスでは、本文の理解を深めるために教師から本文と同時代の【資料】が提示された。Wさんは、【資料】を参考に「マツダランプの広告」と本文の「焼けビル」との共通点をふまえて「私」の「飢え」を考察することにし、【構想メモ】を作り、【文章】を書いた。このことについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。なお設問の都合で広告の一部を改めている。

(i)について。空欄 **I** に入るのはマツダランプの広告が表している「戦後も相変わらず物資が不足している社会状況」と、戦災で焼け残った「焼けビル」との共通点である。さらにこの共通点は、本文の会長の仕事のやり方（戦時中も戦後も金儲けを追求）とも重なる。つまり戦後になった今も、戦時中と変わらぬあり方を保っているこの三者の共通点を正しく説明している選択肢を選べばよい。正解は③。

①は共通点を「軍事的圧力の影響」としている点が誤り。

②は共通点を「節約の精神」としている点が誤り。戦災で焼け残った「焼けビル」や、金儲け第一の「会長のやり方」は、「節約の精神」を表しているわけではない。

④は共通点を「国家貢献を重視する方針」としている点が誤り。

正解 **19** ③

(ii)について。空欄 **II** に入るのは、「かなしくそそり立っていた」「焼けビル」が象徴することである。本文の末尾の一文（「この焼けビルは、私の飢えの季節の象徴のようになしくそそり立っていたのである」）にあるように、「焼けビル」が象徴するのは「私の飢えの季節」である。会社を辞めた「私」は、「永久にこの焼けビルに別れをつげた」が、それでも「焼けビル」は取り壊されるわけでも消失するわけでもない。ふりかえると「焼けビル」は「かなしくそそり立っていた」のであり、会社と決別した「私」が、飢えた生活からも決別できたわけではないことを表している。このように考えると正解は②である。

①・③・④はいずれも「焼けビル」が象徴するものの説明として不適當。たとえば「焼けビルの取り壊しが象徴することは何か」という問いで



あれば③や④は正答になるかもしれないが、もちろん、この設問で聞かれているのはそのようなことではなく、「焼けビルが象徴することは何か」である。

正解

20

②